

めぐるりアート 静岡

記憶をめぐる 記憶をつくる

News 2

September 2016



11/1 TUE → 11/20 SUN

Nakamura

木下琢磨 作品《いのちのまわり》展示構想
(中勘助文学記念館・杓子庵)

※一部会場別会期

見慣れた街が違つて見える
アートをめぐる旅。

めぐるりアート静岡は、静岡市内のさまざまな場所を会場に、今を生きるアートを紹介する展覧会です。静岡大学を中心には3年前から始まりました。今年は、静岡県立美術館、静岡市美術館のエントランスホールに加えて、新たにJR東静岡駅北口の「アート&スポーツ／ヒロバ」、そして旧マッケンジー住宅と中勘助文学記念館を会場に、6人と1組の作家が作品を展示します。

静岡のさまざまな地をめぐりながら、私たちと同じ時代を生きる作家たちの作品に出会うことで、見慣れた街がちょっと違つて見えるかもしれません。

それは記憶をめぐる旅でもあります。JR東静岡駅そばの広大な「空き地」は、かつてこの地の物流を支えた貨物駅でした。今回、そこに古い車掌車を利用した「車掌車ギャラリー」、が作品として登場します。静岡の茶産業と社会福祉に貢献したマッケンジー夫妻の旧居や、小説『銀の匙』で知られる中勘助の仮寓を復元・整備した記念館も会場となります。

特に東静岡ヒロバでは、会期中、現在進行形で作家とともに未来の「まち」を作るプロジェクト「黄金比を使った竹の実験都市」など参加型のイベントも実施します。会期末には、その「まち」でマルシェやカフェ、コンサートなど、フェスティバルを開催、是非、ご参加ください。

多くの皆さんに、静岡の地とアートを「めぐり／めぐつて」いただいて、新たな「記憶がつむがれる」ことを願っています。

めぐるりアーティスト・トーク ④

藁科の記憶を辿る

彫刻家 木下琢朗

生々流転する

「命の一場面」をどうえる

僕は、「生命力」をテーマに作品をつくり続けています。彫刻は、存在感、実態をつかめる命があるのであります。作品をモノとしてではなく、生々流転する「命の一場面」としてとらえています。そして素材である木の本質を追求し、木の持つ背景までも垣間見られる表現でありたいと思っています。

ある時、下絵通りにつくることに疑問を覚え、下絵ありきでは木の本質とはかけ離れているのではと感じました。木の本質を捉えるには、自生している樹木を知る必要があります。「樹」は立ち木で根つこのあるもの、「木」はその立ち木を伐ったもの。その総称は「木」です。樹木に人間が近づいていくことで、木の本質を感じることができるのでないかと考えました。

以前、アトリエがあつた天竜区春野町の山の中では、動植物が息づく自然がすぐそこにいた環境を肌で感じ、その場所で自生する樹木を彫ることで、木の特性を理解し、よりダイレクトに木の本質、さらに生物多様性つながりを感じることができました。

自然との対話から作品は生まれる

そのことから、図案を描いてから素材を選ぶのではなくて、その木と対峙することで何ができるかを発想します。醸し出すと言つた方がいいでしょうか。自然との対話から作品は生まれます。人為的に加工するばかりではなく、木が自然に反つたりする自然な風合いを生かしたモノづくりに取り組んでいます。その場に面面したときにインスピレーションを感じ取り、そこに在るべきモノを見出し空間演出しています。場からつながる背景や環境を知ることで、自分の表現となるカタチになるのです。つくるのは、モノ語りの再生で「場の記憶を辿る」ということ。自然と人が関わり、守られている世界があるということを場の材を通して、表現しています。



と重ね合わせてみたい。中勘助は、「藁科川を見ると、兄を思い出す」と言つていて、自伝的小説『銀の匙』を読むと、河原での出来事から兄との感性の違いに葛藤するシーンがあります。そんな背景もイメージしながら表現する予定です。

文学記念館(母屋)の座敷を藁科川に見立て、木彫りの鮎を座敷に泳がせます。縁側に近い庭の枯山水では木彫りの舟を浮かばせ、映し出すのは遠目の藁科川。同じ場所で、遠近の藁科川を見立てるることができます。中勘助が暮らした杓子庵の軒には、木彫りのキノコを吊します。

また、庭では藁科川の上流坂本地区の自然素材を使い、「いのちのまわり」というテーマで「わ」を創作。ワークショップ形式で、参加者が自ら調達した自然素材を用い皆で一つの「わ」を飾り付けていきます。

そして、旧マッケンジー住宅では、富士山が見える窓に富士山スイッチ(照明の引き紐)につける木彫りの富士山を吊して展示。静岡市の南と北で、過去にあつた自然の景色、今も残っている景色を、自分なりの視点と作品を通して表現します。

中勘助文学記念館・杓子庵

中勘助文学記念館・杓子庵

〒421-1201 静岡市葵区新聞1089-120

Tel: 054-277-2970

開館時間: 10:00 - 17:00 休館日: 月曜日、11/4(金)

バス: しづてつジャストライン 静鉄新静岡(セノバ)またはJR静岡駅北口より藁科線で「見性寺入口」下車

※工事期間中につき駐車場2台程度



木下琢朗

Takuro Kishita

1977年 静岡県御殿場市生まれ

2000年 東北芸術工科大学美術科彫刻コース卒業。大学卒業後、富山県で欄間彫刻を修行する。
彫刻家／掛川市在住2005年 「富嶽ビエンナーレ」入選／静岡県立美術館(静岡)
2007年 個展「こだまするカタチ」アートカゲヤマ(静岡)

2012年 個展「樹の声を聴く」春野山の村(静岡)

2014年 個展「気込出」ギャラリーYellow Passion(静岡)

近年では、その土地にある自然の素材を生かし、「記憶」を掘り起こし、「物語」を紡ぎ出す作品を発表している。



《山から海へ》2015

静岡市美術館

Shizuoka City
Museum of Art

10/25 TUE → 11/13 SUN

Nerhol (田中義久・飯田竜太)

田中義久 たなかよしひさ
1980年 静岡県浜松市生まれ
2004年 武蔵野美術大学卒業
グラフィックデザイナー／東京都在住

石内都、荒木経惟、森山大道らの多くの写真集や、アーティストの作品集の装丁、デザインを手がける。2014年、The Best Photobooks(米TIME誌)に選出。主な賞受賞にFOAM TALENT賞(オランダ)、JAGDA賞、JAGDA新人賞、Art Fair Tokyo 2013 Bacon Prize、Red Dot Award(ドイツ)など。2016年、東京都写真美術館のシンボルマークを作成。

グラフィックデザイナーの田中義久と彫刻家の飯田竜太によるアーティスト・デュオ。2007年結成。田中がアイデアを「練り(=Ner)」、飯田が「彫る(=hol)」ことより命名。代表作に3分間に渡り連続撮影した約200枚のポートレートをプリントし、重ねて「彫った」『Misunderstanding Focus』(ImArt, 2012)や、街路樹を5mm単位で輪切りにし撮影したプリントを重ねて「彫りだした』『multiple - roadside tree』(金沢21世紀美術館, 2016)など。

飯田竜太 いいだりゅうた
1981年 静岡県沼津市生まれ
2004年 日本大学芸術学部美術学科彫刻コース卒業
2014年 東京藝術大学大学院美術研究科先端藝術表現専攻修了
彫刻家／日本大学芸術学部常勤講師／東京都在住
2004年 「第22回 グラフィックアート『ひとつぼ展』」グランプリ受賞／ガーディアン・ガーデン(東京)
2009年 「第12回岡本太郎現代芸術賞展」入選／川崎市岡本太郎美術館(神奈川)
2013年 「Art Fair Tokyo 2013」Bacon Prize受賞／東京国際フォーラム(東京)
2016年 個展「本棚のアーケオブテリス」ガーディアン・ガーデン(東京)

めぐるアート・トーク⑤

情報の全てを 変異させる事とは

アーティスト・デュオ ネルホル

グラフィックデザイナーと 彫刻家の共感

田中：ネルホルのきっかけは、10年ほど前です。僕はグラフィックデザイナーで、飯田は彫刻家ですが、彼の紙を使った作品に関心を持ち、会うことになりました。デザインの世界と違つて、美術は自由な代わりに自己満足的なイメージがあつたのですが、話をすると、共通する部分もあり、違う部分もあって新鮮でした。それを合わせたらどうなるか、それがスタートになりました。

飯田：もともと僕は「本」という形態に興味があり、既成の文庫本を「彫って」作品を作つていきました。田中と出会い、自分のコンセプトを綴った文庫本を彼がデザインしました。26冊つくり、そこにA～Zまでアルファベットを1冊に1文字彫り込んだ作品が最初の作品になりました。

デザインと美術、その違いは？

田中：最初の作品は、発表する気はなかったんですが、たまたま見た人が展示すればと言つてくれて、展示することに。そこでネル(練る)とホル(彫る)のアーティスト名も決めました。飯田：展覧会は、あまり思つたような評価を得られませんでした。



『multiple - roadside tree #3』 2016 ©Nerhol Courtesy of YKG / Yutaka Kikutake Gallery



田中義久
されません
でした。
田中：デザ
イン業界の
人にはデザ
インじゃな
い、美術業
界の人には
美術じゃな
いと言われ
ました。何故そつ言われるのか、検証するため
にも制作をつづける必要性があると感じまし
た。デザインと美術の違いは何なのか、それは
本当に重要な事なのか、ど。

飯田：ポートレートのシリーズ『ATLAS』も予
定しています。これはモデルとなる人にじつ
には、木が内包していた、何年もかけて成長し
た時間の層が顕れています。
カッターで1枚ずつ切り出しています。そこ
に動かないようお願いして、3分間シャッ
ターフォト(約200カット)を切り続けます。しか
しどうしても被写体は動いてしまう。視線は
泳ぎ、揺らぎとなつて表れる。それを全てプリ
ントして重ね、1枚ずつカットしていくまし
た。現実の人が常に孕んでいる動きを、『揺ら
ぎ』としてポートレートに纏わせることで、1
枚の写真では抜け落ちてしまうその人固有の
何かが、顯れているように思います。

田中：これが美術館のインフォメーションの
横にあつたら面白い。「この人誰ですか?」み
たいな…、そもそもポートレートってなんだ
ろうと。
飯田：僕たちとしても故郷の静岡県では初の
展示なので、とても楽しみにしています。

静岡市美術館 エントランスホール・多目的室

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F
Tel:054-273-1515
開館時間:10:00～19:00 休館日:月曜日
JR静岡駅北口より徒歩3分



アート&スポーツ／ヒロバ

Art & Sports /
Hiroba

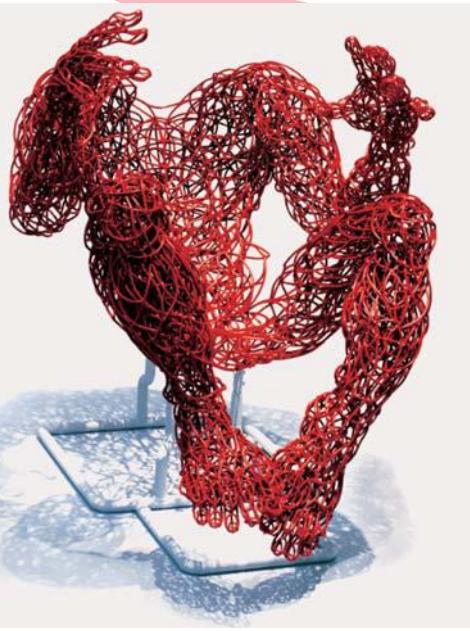
千葉広一
Kouichi Chiba



《国鉄ヨ5000形／車掌車ギャラリー》車体製造1952年



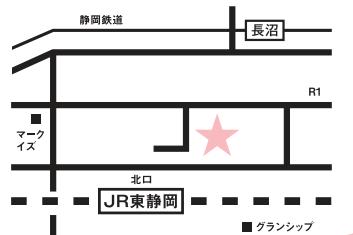
《待合室》2016



《MENTAL CHAIR VI》1995-2015

アート&スポーツ／ヒロバ

JR東静岡駅北口広場
Tel:054-221-1044(8:30-17:15／平日のみ)
静岡市観光交流文化局文化振興課
JR東静岡駅北口すぐ ※駐車場あり



岩野 勝人
Masahito Iwano



太い鉄筋を無数に曲げて溶接した実際に座れる人型の彫刻「メンタル・チェア」など、アートと人の関わりを追求。“まちの小さなパン屋”さんのような身近なアーティストでありたいと願って、ワークショップも各地で数多く開催。昨年はヨルダンにも出かけ、子どもたちの変わらぬ笑顔に迎えられた。昨年度の「めぐるアート静岡」では静岡市美術館で展示。

1961年 徳島県三好郡三加茂町(現 東みよし町)生まれ
1988年 京都市立芸術大学美術学部美術科彫刻専攻卒業
1990年 京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了
大阪成蹊大学芸術学部美術学科准教授(2003-2015)、
池坊短期大学幼児保育学科教授(2015-)／京都府在住

2008年 「IWANO MASAHIKO 現代アートによる徳島再見」徳島県立近代美術館(徳島)
2012年 隠岐しおさい芸術祭2012「様々な作家による、隠岐・西ノ島」島根県隠岐諸島西ノ島(島根)
2014年 「Erosion/Transfiguration—侵蝕と変容の先の関係性へ—」瑞雲庵(京都)
2016年 「めぐるアート静岡 ちょっと、ざわざわ、しに行く」静岡市美術館他(静岡)

前田直紀
ワークショップ

「ヒロバのイス」を作ろう！

前回「めぐるアート」の作家、
前田直紀さんと一緒に「ヒロバのイス」を作りませんか？
前田さんの陶の椅子に彩色したり、
その場で焼いたりします。

11/5(土) 13:30-16:00

雨天順延(11/6 13:30-16:00)

アート&スポーツ／ヒロバ[参加費：無料]

定員：10名 参加資格：特に制限はありません

申し込み・お問い合わせ先

静岡大学教育学部美術教育講座(漆畑)

電話：054-237-9540(月～木 9:00-16:00)

Mail:urushibata.masako@shizuoka.ac.jp

日詰明男

Akio Hizume



大学で建築を学んだ後、25年来、自然界の様々な形の中にあらわれる不思議な比率、黄金比に基づくフラクタル構造を、造形や音楽で表現する仕事を続けている。主な作品に、《民主主義的階段》(U.S.A./NZ)、《黄金比の茶室》(コスタリカ/U.S.A./静岡)、《フィボナッチ・ケチャック(たたけたけ)》など。著書に『生命と建築』(1990)、『音楽の建築』(2006)がある。

1960年 長野県長野市生まれ
1987年 京都工芸繊維大学建築学科卒業
武蔵美術大学特別講師(2008-)、
龍谷大学理工学部客員教授(2009-)／静岡県榛原郡川根本町在住

1994年 「眼の宇宙ーかたちをめぐる冒険」兵庫県立近代美術館(兵庫)
2006年 「美術館ワンドーランド 夏の思いで 今を生きる」安曇野市豊科近代美術館(長野)
2008年 個展「星ボックリ茶寮」京都芸術センター(京都)
2010年 「黄金比のかたチ」静岡市美術館(静岡)



「月暦七夕 青部 バンブーストック」川根本町青部 2016 撮影:永井萌美

参加者募集!

めぐるアート静岡・日詰明男ヒロバプロジェクト 黄金比を使った竹の実験都市

黄金比の研究家でアーティストの日詰明男さん&竹祭artist集団BAMBOOSTOCKと一緒に、「黄金比を使った竹の実験都市」を作りませんか。今年のめぐるアート静岡では、JR東静岡駅北口の広大な「アート＆スポーツ／ヒロバ」に、5角形を基本とした黄金比による区画を描き、竹で構造物を作ります。出来上がった“未来のまち”では、黄金比と竹の音楽によるコンサートやマルシェなど、「バンブーストック・フェスティバル」を開催します。

毎朝、竹で大きな“星”を作るワークショップでスタートし、日詰さんによる黄金比のお話を聞きながら、竹で“未来のまち”を作ります。夕方には、竹を叩いてみんなで黄金比のリズムを奏でるワークショップ「たたけたけ」を行います。初めての方、都合のつく時間だけの参加も歓迎です。見学自由ですので、是非、お気軽にお立ち寄りください。皆さまのご参加をお待ちしています。

制作予定日

10/29(土)、10/30(日)、11/3(木祝) - 11/6(日)(予定)

時間:各日とも10:00-16:00頃まで

場所:JR東静岡駅北口「アート＆スポーツ／ヒロバ」

※雨天中止。日程、時間は変更になる場合があります。

事前にめぐるアートHP (<http://megururi.net/2016/>) の

フェイスブックお知らせ欄等でご確認ください。

※参加無料、申込み不要、当日直接お越しください。(見学のみも歓迎)

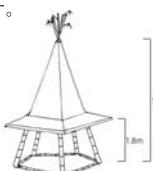
作業内容:竹を切断したり加工して、組み立てます。

持ち物:軍手、お持ちの方は鉛や鋸などの道具類

服装:作業の出来る服装で

対象:どなたでも(お子さんの場合は保護者の方とご一緒にお願いします。)

問い合わせ:070-4288-2240(開催日のみ)



バンブーストック・フェスティバル

バンブーストック・フェスティバルは、めぐるアート静岡「アート＆スポーツ／ヒロバ」会場で行われる秋の収穫祭。アーティスト日詰明男さんと多くの市民の皆さんが創り出した“未来のまち”を舞台に、マルシェ(屋台)や音楽ライブが楽しめます。

11/19(土)10:00-16:00

11/20(日)10:00-17:00(クロージングイベント 17:00-)

会場:JR東静岡駅北口「アート＆スポーツ／ヒロバ」

問い合わせ:オルタナティブスペース・スノドカフェ 054-346-7669

10/30 SUN
→
11/20 SUN
めぐるアート静岡 News 第2号



鈴木基真

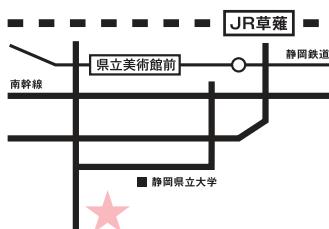
Motomasa Suzuki

映画やインターネット上の画像、ビデオゲームの中で出会った風景に、作家の想像を交えた木の彫刻を制作している。異なる物語を持った風景の彫刻を、鑑賞者の目線の高さに上げた台座の上に複数配置し、レイヤー構造を持たせた展示や、鑑賞者の視覚性を意識した、現代における新たな彫刻の可能性を追求している。

1981年 静岡県浜松市生まれ
2004年 武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業
東京都在住

2008年 「第11回岡本太郎現代芸術賞展」入選／川崎市岡本太郎記念美術館(神奈川)
2010年 「群馬青年ビエンナーレ2010」優秀賞受賞／群馬県立近代美術館(群馬)
2013年 「瀬戸内国際芸術祭2013」小豆島16エリア(香川)
2016年 個展「鈴木基真展 Honest Place」さいたま市プラザノース(埼玉)

撮影:Ken Kato



静岡県立美術館

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2
Tel: 054-263-5755
開館時間: 10:00 - 17:30 休館日: 月曜日
JR「草薙駅」から静鉄バス「県立美術館前行き」で約6分
静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約15分、
または静鉄バスで3分 ※駐車場あり

鈴木基真 ワークショップ

粘土で風景を作ろう!

風景をモチーフにした彫刻を制作する。
鈴木基真さんを講師にお招きして、たくさんの
粘土を使って木や建物の立体造形を作ります。

11/12(土) 13:00 - 16:30

静岡県立美術館実技室 [参加費: 無料]
定員: 20名 参加資格: 小学生以上
申し込み: お問い合わせ先
静岡大学教育学部美術教育講座(漆畠)
電話: 054-237-9540 (月~木 9:00-16:00)
Mail: urushibata.masako@shizuoka.ac.jp

福井利佐

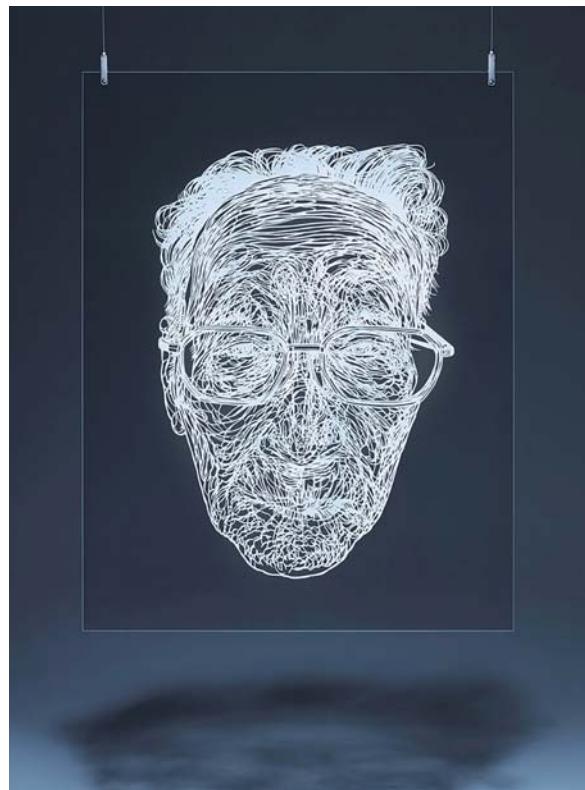
Risa Fukui



中学生の頃より、学校のクラブ活動で切り絵に親しむ。大学卒業時からは、紙を切って作る線の集積で、皮膚や毛並みをとらえ、人間や動物を描き出す独自のスタイルで、新たな切り絵の世界を開いてきた。近年は、それまでの黒い線とは異なる白や、他の色の線を使って、豊かさを合わせ持ちつつ、より対象の本質に迫る表現を探求している。

1975年 静岡県静岡市生まれ
1999年 多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業
切り絵アーティスト / 東京都在住

1999年 「JACA日本ビジュアル・アート展」特別賞／フジタヴァンテミュージアム(東京)、
グアダラハラ州立大学博物館(メキシコ)
2012年 個展「切り絵を魅せる～福井利佐の世界～」駿府博物館(静岡)
2013年 個展「LIFE-SIZED」POLA MUSEUM ANNEX(東京)
2014年 個展「福井利佐展—進化する切り絵の世界—」金津創作の森(福井)



《LIFE-SIZED (an old man)》 2013

旧マッケンジー住宅

Former Mackenzie House



《何処へ》2016

千葉 広一 Kouichi Chiba



現実と仮想現実との境の消失は、アートだけのことではない。そんな趨勢の彼方に千葉の営みがある。小さな素描をノートから切り抜き、日常にからませ、カメラで写し言葉を重ねる。光、季節、花…友、母と子、家…思春期、眠り、別れ…すべてリアルで、いとおしい。千葉は、過ぎゆく時のながら、瑞々しい感傷をすくいとる。

1967年 埼玉県浦和市(現さいたま市)生まれ

1992年 東京藝術大学絵画科油画専攻卒業

美術家／静岡市在住

2012年 個展「いつか・どこか・きっと」ギャラリーsensenci(静岡)

2012年 「MAX A5 2012」KONTORS Galleri(デンマーク)

2013年 「写真新世紀 2013」佳作、東京都写真美術館(東京)

2014年-2015年 静岡新聞日曜版に詩人平田俊子のエッセイ挿画として作品連載(全88回)

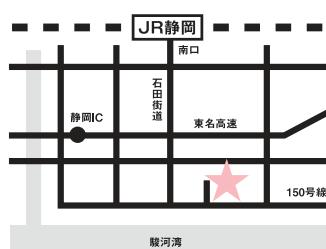
旧マッケンジー住宅

〒422-8034 静岡市駿河区高松2852

Tel:054-237-0573

開館時間:9:00-16:30 休館日:月曜日、11/4(金)

バス:JR静岡駅南口より石田街道線「下島經由東大谷行」で「浜敷地」下車徒歩5分 ※駐車場あり



木下琢朗 Takuro Kishita



《富士山スイッチ》2016

中勘助文学記念館・杓子庵



静岡市は、文豪・夏目漱石に見いだされ、「銀の匙」で有名な中勘助が暮らしていた旧前田邸と杓子庵を復元・整備し、平成7年、中勘助生誕110年(没後30年)を記念して、「中勘助文学記念館」を開館しました。昭和18年、東京から安倍郡服織村新間に転地静養した中勘助は、昭和20年に服織村羽鳥(現 静岡市葵区羽鳥)に移り、昭和23年東京は中野に戻るまでの間、「鶴の話」「ひばりの話」「鷺の話」「白鳥の話」「結婚」「余生」「遺書」、あるいは、詩や短歌、俳句などたくさんの作品を生み出しました。中勘助文学記念館では、実際に小説のモデルとなった銀の匙が展示され、内筆の原稿なども観ることができます。

静岡市で最初の名誉市民は誰でしょう。それは、エミリー・M・マッケンジー夫人です。夫のダンカン・J・マッケンジーは、静岡を拠点に日本茶の貿易と振興に大きな貢献をした人です。この住宅は、夫妻が建築家ウィリアム・M・ウォーリズに設計を依頼し、風光明媚な海辺に、昭和15年に建てたものです。翌年12月の太平洋戦争勃発後も夫妻はそこに留まりますが、昭和18年に最終の日米交換船で帰米しました。戦後昭和23年に再来日を果たすものの、夫は3年後に永眠します。エミリー夫人はその後も静岡において、私財を投じ社会福祉事業に尽力しました。昭和47年の夫人帰国に際し、敷地の半分が静岡市に寄贈され、残り半分と建物は市が買い取りました。住宅は現在、国登録有形文化財として広く公開されています。

旧マッケンジー住宅



めぐるりアート 静岡

記憶をめぐる 記憶をつくる

2016/11/1 TUE → 11/20 SUN

※一部会場別会期

観覧無料

※一部有料

中勘助文学記念館・杓子庵

Kansuke Naka
Cottage & Museum

木下琢朗
Takuro Kishita

10/25^{THU}→11/13^{SUN}

静岡市美術館

Shizuoka City
Museum of Art

Nerhol
(田中義久・飯田竜太)

10/30^{WED}→11/20^{SUN}

アート&スポーツ／ヒロバ

Art & Sports / Hiroba

静岡県立美術館

Shizuoka Prefectural
Museum of Art

鈴木基真
Motomasa Suzuki

福井利佐
Risa Fukui

岩野勝人
Masahito Iwano

千葉広一
Kouichi Chiba

日詰明男
Akio Hizume

Megururi Art Shizuoka

アーティストトーク

10/30^{WED}※アート&スポーツ／ヒロバのみ雨天中止

10:00-10:30 岩野勝人 アート&スポーツ／ヒロバ

11:00-11:30 日詰明男

14:00-14:50 Nerhol 静岡市美術館

11/12^{SAT}

10:30-11:20 木下琢朗 中勘助文学記念館

11/13^{SUN}

13:30-14:20 鈴木基真 静岡県立美術館

14:30-15:20 福井利佐

11/19^{WED}※雨天翌日20(日)順延

10:30-11:20 千葉広一 旧マッケンジー住宅

13:00-13:50 千葉広一

14:00-14:50 岩野勝人 アート&スポーツ／ヒロバ

15:00-15:50 日詰明男

旧マッケンジー住宅

Former Mackenzie House

千葉広一
Kouichi Chiba

木下琢朗
Takuro Kishita

<http://megururi.net>

同時
開催

富士の山ビエンナーレ2016 10/28(金)-11/27(日) 入場無料

会場:静岡市清水区、富士市、富士宮市内各所

Tel:0545-81-0063(富士の山ビエンナーレ実行委員会事務局)

ロダンウィーク 11/1(火)-11/6(日) ※一部有料

会場:静岡県立美術館 Tel:054-263-5755

とろエンナーレ2016 11/12(土)-11/27(日) 入場無料

会場:登呂遺跡・登呂博物館 Tel:054-285-0476



静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art
— 30th ANNIVERSARY —

静岡市美術館
SHIZUOKA CITY
MUSEUM of ART

静岡市
Shizuoka City

キニナル
スキニナル
プロジェクト
KININAL SKINNAL PROJECT